



MMWIN[®]みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 97

「個別公開機能」を使った転院調整事例の紹介

仙台医療センター地域医療連携室では、MMWIN「個別公開機能」を使い、転院先への診療情報を電子的に提供する試みを、2022年5月11日より始めています。

「個別公開機能」とは、一時的に患者さんの診療情報を施設間で共有する機能です。この運用は、救急科医長 川副 友先生のご提案だそうです。

その評価と今後の展開について、川副先生と連携室主任 小倉様にお話を伺いました。



～～川副 友先生のお話～～



川副 友 先生

Q：「個別公開機能」活用のきっかけを教えてください。

A：東北大学病院勤務時代の経験です。早期の連携が必要になる場合、紙文書でのやり取りでは、どうしてもタイムラグがでてしまいます。画面を通じて、患者情報を共有しながらリモートカンファレンスを行うようになれば、迅速に無駄なく対応できます。効果として、紙に書き直す必要がないので手間が省けることと、文字情報だけではなく画像を含めた情報を提供でき、共有できる情報量が多いことです。

Q：その他の利用方法をお聞かせください。

A：緊急事態で、患者さんを急いで転院搬送しなくてはならないときに、検査画像をCD-ROMに書き込む時間が待てない時があります。そういうときに、MMWIN「個別公開機能」を使い画像提供できれば、非常に助かります。また、救急外来で多様な症例を受け入れる際には、患者さんの治療歴情報をご家族から聞き出したり、通院歴のある病院から紹介状を送ってもらったりするなどに、大変な労力を使っています。もし患者さんがMMWINに加入されていたら、正確かつ迅速に情報を把握できるようになります。

Q：課題等がございましたらお聞かせください。

A：必ずMMWINシステムに登録しなければならないという手順があります。事務的な手続きは、基本的に平日の対応となります。夜間や休日救急時の対応方法の検討が必要です。また、個々の症例において、患者本人及び代諾者からの同意が必要です。特に緊急時などはオプトアウト方式による同意が可能となれば、より使いやすくなると思います。

～～連携室主任 小倉様のお話～～

Q：地域医療連携室の評価をお聞かせください。

A：当初、MMWINを利用するには、なかなかハードルが高いという印象がありました。ですが、「個別公開機能」の利用は、紐づけせずに情報共有できますし、操作はとても簡単でした。コロナ禍前ですと、患者さんの受入れに際し、転院先の先生と当院の医師とで、カルテや患者さんを診て相談するなどできたのですが、今では行き来も難しくなり、MMWINのニーズはどんどん高まっていると思います。また、三次救急である当院では、重症の患者さんをより多く受け入れるため、ある程度症状が落ち着いた患者さんは、スムーズに転院先を調整する必要があります。その際に、MMWINの「個別公開機能」を利用することにより、沢山の情報を迅速に共有できるため、スムーズな転院支援につながっていると思います。今後は、一般の転院調整にも広げて利用できるようになればと思います。

Q：ご要望があればお聞かせください。

A：当院のADL情報と、レポート類の自動アップロードができれば良いと思います。今はスキャンで読み込むような運用にしています。今後は、リハビリで連携する病院にも拡大できたら、もっともっと便利になり、私たちだけでなく連携施設側にも大変良いことと思います。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。